

『令制の國學について』補正

高橋 俊乘

本誌五月號の拙稿『令制の國學について』に關し次の二點を補正しておきたい。

六四頁十行以下、養老二年按察使の配置は既に五月號に記した通りである。その後多少の變遷の有つた事について書き漏したが、本稿の趣旨に關係が深いから補説する事を許していただきたい。早く養老五年に新しく長門・陸奥に按察使を置き、同時に從來の按察使の管治國も若干變更された。その後も臨時に多少の變更が行はれたことは、天平勝寶四年に橘奈良麻呂が但馬・因幡の按察使に任せられたが、其の管治國が養老三年並に五年の制定と頗る違つてゐるのを見ても推察しうる。しかし平安時代には按察使の名は陸奥・出羽を除いては、殆ど史上に見えなくなつた。

八八頁四行 江次第鈔は江次第(又は江家次第)の誤記である。

彙報

印度宗教學會例會

五月二十八日(水)午後七時より學生集會所乾室に於いて
佛教の教義とその藝術 文學博士 松本文三郎君

美學會

五月二十六日午後六時半より學生集會所南室に於いて
岡頼三氏歸朝歡迎會

哲學茶話會

六月三日(火)午後六時より學生集會所南室に於いて開催す。西田、朝永、田邊三先生の御出席あり。會するもの五十名講演後種々論議あり、盛會なりき。

文學士 高坂 正 顯君

新著紹介

教育と道德

西 晋 一 郎著

本書は廣島高師教授西博士の近著であつて、教育に關する論文を序論外十三篇を集めてある。雜誌に載せられた個々獨立の論文を集めたものであるから、順序を立て、集めてはあつたが、教育學全般に對する著者の組織的な見解を伺ひ知ることは出来ない。しかし「教育とは嚴密に言へば道德教育であることを見せよ」と企てられた著者の目的は十分に達せられたものを見るべく、一切